
宮崎県埋蔵文化財センター一年報

第 1 9 号

平成 2 7

(2 0 1 5)

年 度

2 0 1 5

序

平成26年3月の東九州自動車道(宮崎～延岡間)の全線開通に引き続き、1年後の本年3月には、佐伯～蒲江間が開通し、宮崎市から大分市が高速道路で結ばれ、防災等の安全面はもちろんのこと、広域観光、産業振興、交通・物流等の広範な分野で期待されております。

このようなインフラ整備と密接に関わる当センターでは、平成26年度、国関連事業に伴う1遺跡、さらに県の事業に伴う4遺跡の発掘調査を実施いたしました。さらに、このような各種開発事業に伴う発掘や確認調査に加え、県指定古墳などの重要遺跡の調査を行い、出土した文化財の整理、収蔵、公開を実施いたしました。

また、県民の皆様には宮崎の歴史を紐解く機会としていただくために、神宮分館での常設展や発掘成果展に加えて、延岡市、えびの市、日南市の3会場で巡回展を行い、埋蔵文化財の保護と活用に積極的に取り組んでいるところです。

平成27年度は、都城志布志道路、高千穂日之影道路、東九州道スマートIC建設、西諸農業水利事業など6遺跡の発掘調査に着手する予定であります。また、埋蔵文化財の保護・活用に力点を置く活動として、県内2カ所を巡回する「埋文キャラバン」を新たな事業として計画し、これまで以上に、県民の皆様には郷土の歴史を身近なものとしていただく機会を持ちたいと考えているところです。

なお、本書は、当センターの概要と平成26年度に実施した諸事業についてまとめたものです。

本書を、埋蔵文化財保護行政への御理解の一助として御活用いただくようお願いいたします。

今後とも、当センター職員が一丸となり業務に取り組んで参りますので、関係各位の御理解と御協力をお願いいたします。

平成27年5月

宮崎県埋蔵文化財センター
所長 岩切隆志

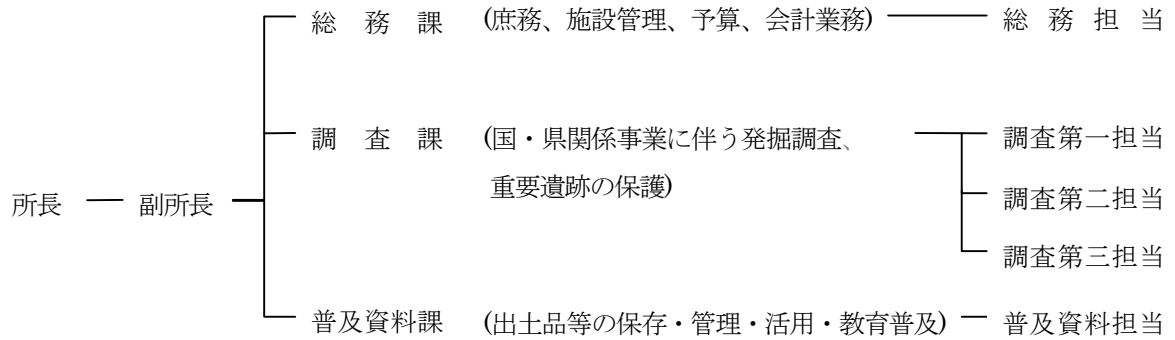
目 次

I	組織・施設	1
II	埋蔵文化財センターの沿革	3
III	平成26年度の活動状況	5
1	埋蔵文化財緊急調査等	5
(1)	発掘調査	5
(2)	発掘調査に伴う調査指導及び職員の資料調査	7
(3)	出土遺物等整理及び発掘調査報告書の刊行	8
(4)	重要古墳等保護活用推進事業	9
(5)	保存処理	10
(6)	収蔵整理	10
2	教育普及活動	11
(1)	巡回展『みやざき発掘100年—いにしへの「道」と交流—』	11
(2)	埋文センター施設公開	12
(3)	出前講座	12
(4)	出前展示	13
(5)	遺跡発掘速報会	13
(6)	発掘体験	13
(7)	現地説明会	14
(8)	発掘調査成果報告会	14
(9)	見学・研修等で訪れた団体および職場体験の受け入れ	14
(10)	資料等の提供	15
(11)	職員派遣	18
(12)	埋蔵文化財担当専門職員研修会	18
(13)	広報出版物	18
(14)	ホームページ	19
3	会議・職員研修	19
(1)	各種会議等への参加	19
(2)	共同研究への参加	20
(3)	労働安全衛生関係の講習会等への参加	20
IV	宮崎県埋蔵文化財センター管理規則	21

I 組織・施設

組織

(平成 27 年 4 月 1 日現在)



所長	岩切 隆志	調査第二担当
副所長	菅付 和樹	主幹 吉本 正典
		主査 根井 英樹
		(高速道対策局・併)
総務課		主査 橋本 英俊
課長	上谷 政隆	(高速道対策局・併)
総務担当		主査 松浦 朋彦
副主幹	安藤 忠洋	(高速道対策局・併)
主査	関 雅文	主査 甲斐 貴充
主査	赤木 恭子	(高速道対策局・併)
		主査 徳原 宏樹
		専門主事 近藤 協
		主任主事 後藤 清隆
調査課		調査第三担当
(兼)課長	菅付 和樹	副主幹 日高 広人
調査第一担当		主査 高橋 浩子
主幹	松林 豊樹	主査 木場 正浩
主査	山元 清春	
(宮城県教育委員会派遣)		普及資料課
主査	和田 理啓	課長 鳥原 孝仙
主査	永野 一美	
主査	二方 和也	普及資料担当
主査	徳田 尚文	主幹 赤崎 広志
専門主事	長津 宗重	主査 柳田 晴子
主任主事	加藤 徹	(非常勤職員)
		整理専門員 貴嶋 活実

施設

(本館) 宮崎市佐土原町下那珂4019

本館 2,656.50 m²

① 管理棟・調査研究棟 (鉄筋コンクリート造一部木造平屋建) 1,745.99 m²

事務室 57.76 m²

所長室 19.86 m²

情報処理室 33.17 m²

会議室 78.52 m²

休憩室 78.52 m²

調査研究室 248.55 m²

復元整理室 293.44 m²

一次処理室 96.81 m²

図面整理室 61.62 m²

写場 64.20 m²

暗室 12.65 m²

一次保管室 (2層) 188.00 m²

図書室 (2層) 193.88 m²

荷捌室 43.01 m²

その他 276.00 m²

② 整理作業棟 (収蔵庫) (鉄骨造) 216.76 m²

③ 収蔵庫棟 (鉄骨造) 693.75 m²

(分館) 宮崎市神宮2丁目4-4

分館 (鉄筋コンクリート造2階建) 1,652.38 m²

1階 877.58 m²

一次処理室 121.20 m²

復元整理室 148.30 m²

保存処理室 49.30 m²

(鉄器 22.70 m²)

(木器 26.60 m²)

研修室 143.20 m²

事務室 41.80 m²

展示室 150.00 m²

器材庫 11.00 m²

エントランスホール他 212.78 m²

2階 774.80 m²

写場・暗室 49.30 m²

写真保管室 35.10 m²

図面保管室 53.10 m²

収蔵整理室 19.30 m²

収蔵室 564.00 m²

特別収蔵室 54.00 m²

Ⅱ 埋蔵文化財センターの沿革

西暦	年月日	事項
1980	昭55	「埋蔵文化財調査センター建設計画」立案
1981	56	基本設計を実施
1982	57. 1. 9 7. 29 10. 2	起工式 竣工 宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターとして宮崎市神宮2丁目4-4に設置。 センター長吉田敏明（兼博物館副館長）以下本務職員2名（岩永哲夫、谷口武範）、兼務職員8名、嘱託2名 発令。出土品等の整理保管と教育普及活動を行う。 開館記念講演「日本文化のふるさとをたずねて、東南アジアの旅から」 （講師：国立民族学博物館教授 佐々木高明）
1983	58. 4. 1	センター長細川達雄発令。本務職員を3名（茂山護、岩永哲夫、谷口武範）に増員する。
1984	59. 4. 1	（茂山護転出、菅付和樹転入）
1985	60. 11. 2	文化財保護強調週間の行事として施設公開を初めて行う。
1986	61. 4. 1 61. 7	センター長久徳菊雄発令。兼務職員7名になる。 毎月第4土曜日の映写会「遺跡をたずねて」を始める。
1987	62. 3 62. 4	埋蔵文化財調査研究報告第1集「陣内第2遺跡、蓮ヶ池横穴墓群―遺物編」刊行。 埋蔵文化財講座を始める。
1988	63. 3 63. 4. 1	埋蔵文化財調査研究報告第2集「下那珂貝塚」刊行 センター長長友巖発令。本務職員1名（菅付和樹）、兼務職員9名となる。
1989	平1. 4. 1	センター長石井祥博発令。本務職員1名（永友良典）、兼務職員11名となる。
1990	2. 3 4. 1	埋蔵文化財調査研究報告第3集「下北方古墳―遺物編」刊行。 兼務職員13名となる。
1991	3. 3 4. 1	埋蔵文化財調査研究報告第4集「下弓田遺跡―資料編1」刊行。 センター長木幡文夫発令。設備充実の一環として、軟X線撮影装置等を導入する。
1992	4. 4. 1	センター長藤崎景二発令。 埋蔵文化財センター開設10周年記念企画展「宮崎の埋文情報展'82～'91」を開催する。 脱塩装置、赤外線TVカメラシステム等を導入する。
1993	5. 4. 1 9. 15	センター長後藤健志発令。本務職員1名（長津宗重）、兼務職員15名となる。 空調設備増設
1994	6. 3. 8	特別収蔵庫設置
1995	7. 1. 29 2. 16 4. 1	一般収蔵庫増設工事完成 屋根防水工事完了 センター長関屋清志発令。本務職員1名（長津宗重）、兼務職員24名となる。 県文化課埋蔵文化財第二係（調査部門）を埋蔵文化財センターに置く。
1996	8. 4. 1	宮崎県埋蔵文化財センターとして総合博物館から分離独立し、庶務係、調査第一係、第二係、教育普及係（第二係兼務）を置く。 所長藤本健一以下職員37名、嘱託1名発令。 鶴島分室（旧婦人相談所：宮崎市鶴島2丁目11-25）を設置し、調査第一係（東九州自動車道担当）を置く。
1997	9. 3. 17 4. 1	分室を国富（旧国富農業改良普及センター：国富町大字本庄4777-2）に移転する。 職員37名、嘱託7名となる。
1998	10. 4. 1	所長田中守発令。職員39名、嘱託8名となる。
1999	11. 4. 1	職員42名、嘱託8名となる。
2000	12. 1. 20 4. 1	佐土原町に新館が完成し、国富分室を統合廃止する。神宮の旧本館を分館とする。 所長矢野剛発令。課制となり、総務課、調査第一課、調査第二課、普及資料課を置く。 職員52名、非常勤職員12名となる。分館（研修室、事務室、図面保管室、写真保管室）改築工事完成
2001	13. 4. 1 7. 1	職員59名、非常勤16名となる。 調査第一課調査研究室設置
2002	14. 4. 1	所長米良弘康発令。職員63名、非常勤職員17名となる。
2003	15. 4. 1	職員64名、非常勤15名となる。
2004	16. 4. 1	所長宮園淳一発令。職員62名（うち任期付き職員13名）、非常勤職員12名となる。 収蔵庫用に旧爾検定工場を農政企画課から所管換え。

西暦	年月日	事 項
2005	17. 3. 8 4. 1 8. 18 11. 16	収蔵第一期工事完成。 職員61名（うち任期付き職員19名）、非常勤職員9名となる。 収蔵第二期工事完成。 調査一課整理棟の設置。（東畦原整理作業棟撤去に伴い貸借開始）
2006	18. 4. 1	所長清野勉発令。職員 64 名（うち任期付き職員 18 名）、非常勤職員 8 名となる。
2007	19. 6. 1	職員 64 名（うち任期付き職員 19 名）、非常勤職員 3 名となる。
2008	20. 4. 1	所長福永展幸発令。職員 61 名（うち任期付き職員 16 名）、非常勤職員 2 名となる。調査第一課整理棟撤去。
2009	21. 4. 1	職員 59 名（うち任期付き職員 18 名）、非常勤職員 1 名となる。
2010	22. 4. 1	所長森隆茂発令。職員 62 名（うち任期付き職員 18 名）、非常勤職員 1 名となる。
2011	23. 4. 1	職員 53 名（うち任期付き職員 15 名）、非常勤職員 1 名となる。
2012	24. 4. 1	所長北郷泰道発令。職員 42 名（うち任期付き職員 7 名）、非常勤職員 1 名となる。
2013	25. 4. 1 10. 12 ～ 12. 8	所長向井大蔵発令。職員 31 名、非常勤職員 1 名となる。 特別展『みやざき発掘 100 年ーいこしえの「道」と交流』開催
2014	26. 4. 1	所長岩切隆志発令。職員 28 名、非常勤職員 1 名となる。調査第一課と調査第二課を統合し、調査課を置く。
2015	27. 4. 1	旧調査第一課調査研究室撤去

Ⅲ 平成26年度の活動状況

埋蔵文化財センターは次に掲げる業務を行っている。

- 1 埋蔵文化財の調査研究
- 2 出土品その他の資料の保存及び活用
- 3 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備
- 4 埋蔵文化財関係者の専門的・技術的な研修及び指導
- 5 埋蔵文化財保護思想の普及及び啓発

平成26年度は以下に記述する事業を実施した。

1 埋蔵文化財緊急調査等

(1) 発掘調査

国、県施設の建設に伴う試掘・確認調査や発掘調査を実施している。本年度は11件の試掘・確認調査と中床丸遺跡（都城市）、笹ヶ崎遺跡（都城市）、鍋倉第2遺跡（えびの市）、一本松遺跡（都城市）、戸崎城跡（小林市）の本調査を実施した。

試掘・確認調査一覧

	遺跡等名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査期間	調査面積	調査担当者	調査原因
1	笹ヶ崎遺跡	都城市 梅北町	縄文 弥生 古代 中世	溝状遺構 ピット	縄文土器・弥生 土器・石器 土師器・陶器・ 青花・鉄製品	H26. 5. 8 H26. 5. 22 H27. 5. 23 (実調査日数3日)	137 m ²	橋本英俊 沖野 誠	県道飯野 松山都城線 (都城志布志 道路) 建設 梅北工区
2	平田遺跡 隣接地 及び南横 市地区	都城市 南横市 町	弥生	ピット	弥生土器	H26. 9. 16 } H26. 9. 18 (実調査日数3日)	213 m ²	菅付和樹 福田泰典 徳田尚文	都城道路 建設(2工 区)
3	保木島 遺跡	都城市 梅北町	—	—	—	H26. 10. 8 (実調査日数1日)	124 m ²	福田泰典	県道飯野 松山都城線 (都城志布志 道路) 建設 梅北工区
4	平底地区	日之影町 大字七折	—	—	—	H26. 12. 16 } H26. 12. 17 (実調査日数2日)	12 m ²	菅付和樹 福田泰典 沖野 誠	高千穂日 之影道路 (平底地 区) 建設

	遺跡等名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査期間	調査面積	調査担当者	調査原因
5	高樋遺跡 隣接地	都城市 梅北町	—	—	—	H26. 12. 22 (実調査日数1日)	9 m ²	福田泰典 沖野 誠	県道飯野 松山都城線 (都城志布志 道路) 建設
6	平田遺跡	都城市 南横市 町	弥生 中世	溝状遺構、土 坑 ピット	弥生土器	H27. 1. 23 (実調査日数1日)	95 m ²	菅付和樹 安藤忠洋 福田泰典 橋本英俊 沖野 誠	都城道路 建設(2工 区)
7	松下遺跡	都城市 志比田 町	弥生～古 墳 時期不明	竪穴建物跡 溝状遺構	弥生土器	H26. 2. 18 (実調査日数1日)	50 m ²	橋本英俊 沖野 誠	都城道路 建設(2工 区)
8	保木島 遺跡及び 隣接地	都城市 梅北町	縄文早期 時期不明	集石遺構 ピット	縄文土器・石器	H27. 2. 24 H27. 2. 25 (実調査日数2日)	52.5 m ²	橋本英俊 沖野 誠	県道飯野 松山都城線 (都城志布志 道路) 建設 金御岳工 区
9	嫁坂遺跡 隣接地	都城市 梅北町	近世以降	畝状遺構	—	H27. 3. 4 (実調査日数1日)	90 m ²	福田泰典 新谷 清	県道飯野 松山都城線 (都城志布志 道路) 建設 金御岳工 区
10	小迫遺跡 隣接地	都城市 梅北町	—	—	—	H27. 3. 10 H27. 3. 11 (実調査日数2日)	24 m ²	福田泰典 橋本英俊 沖野 誠	県道飯野 松山都城線 (都城志布志 道路) 建設 金御岳工 区
11	金田地区	都城市 金田町	—	—	—	H27. 3. 24 (実調査日数1日)	50 m ²	吉本正典 新谷 清	都城道路 建設(1工 区)

発掘調査一覧

	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査期間	調査面積	調査担当者	調査原因
1	中床丸 遺跡 第2次 調査	都城市 梅北町	縄文草創 期 縄文早期 縄文後～ 晩期 中世	集石遺構9 基、散礫、土 坑5基、溝状 遺構9条、掘 立柱建物1 棟、竪穴状遺 構2軒	縄文土器・石器 白磁・青磁・土 師器・須恵器・ 鉄製品	H26. 4. 21 } H27. 1. 16 (実調査日数 145日)	4,500 m ²	永野一美 野崎一人	県道飯野 松山都城線 (都城志布志 道路) 建設 梅北工区

	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査期間	調査面積	調査担当者	調査原因
2	笹ヶ崎遺跡 第1次調査	都城市 梅北町	縄文早期 縄文前～ 中期、縄 文後～晩 期、古墳 時代中世	集石遺構1 基、土坑8基、 竪穴建物跡2 基、溝状遺構 14条、掘立柱 建物跡8棟、 畝状遺構	縄文土器・石器 土師器 陶磁器	H26. 5. 27 } H27. 2. 27 (実調査日数 152日)	4,600 m ²	山元清春 松浦朋彦 甲斐貴光	県道飯野 松山都城線 (都城志布志 道路) 建設 梅北工区
3	笹ヶ崎遺跡 第2次調査	都城市 梅北町	縄文草創 期～早期 縄文前期 縄文後～ 晩期 中世	集石遺構2基 土坑5基 堀切状遺構2 溝状遺構7条 土壇墓1基	縄文土器、石器 土師器、鉄器、 石器、陶磁器	H26. 7. 28 } H27. 2. 27 (実調査日数 128日)	3,200 m ²	根井英樹 木場正浩	県道飯野 松山都城線 (都城志布志 道路) 建設 梅北工区
4	戸崎城跡	小林市 野尻町	中世 近世 近代	曲輪跡、土塁、 堀切、道路状 遺構、台場	土師器 陶磁器	H26. 6. 9 } H26. 8. 29 (実調査日数 47日)	2,000 m ²	二方和也 徳田尚文	国道268号 道路拡幅 工事
5	鍋倉第2遺跡	えびの市 大字 大河平		集石3 土坑2	縄文土器、石器	H26. 8. 25 } H26. 10. 30 (実調査日数 41日)	1,000 m ²	山田洋一郎 新谷 清	西諸(二期) 農業水利事業 大河平第1 ファームボンド 工事
6	一本松遺跡	都城市 山之口町	中世	集石3 土坑2	土師器 陶磁器 鉄滓・鉄製品 鞆羽口	H26. 11. 4 } H26. 12. 19 (実調査日数 29日)	133 m ²	徳田尚文 新谷 清	国道269号 山之口 SASIC道路 改良工事

(2) 発掘調査に伴う調査指導及び職員の資料調査

慎重な比較検討を要する遺跡の調査を実施するにあたって、調査方法等の指導を受けるため各分野の専門の研究者を招聘している。また、職員を派遣し、位置づけの明確でない遺構や遺物について調査を行うものである。

<調査指導>

所属・氏名	指導内容	場所	日程
宮崎大学名誉教授 柳澤 一男	百塚原古墳群確認調査に係る調査指導	西都市大字三宅字西原	H26. 11. 12

<資料調査>

目的	出張先	日程	出張者
本年度は該当なし	—	—	—

(3) 出土遺物等整理及び発掘調査報告書の刊行

埋蔵文化財センターでは、発掘調査で出土した遺物等の水洗、注記から実測、製図までの整理を行い、発掘調査報告書を作成している。本年度整理を実施した遺跡は7遺跡で、内訳は高規格道路が国土交通省事業1遺跡、県土木事務所事業2遺跡、一般国道・西諸農水事業・河川改修・スマートIC事業が各1遺跡である。また、整理作業の終了した3遺跡については発掘調査報告書を刊行した。

出土遺物等整理対象遺跡一覧

遺跡名	事業名	事業者
駄小屋遺跡	一般国道218号北方延岡道路建設	国土交通省九州地方整備局 延岡河川国道事務所
鍋倉第2遺跡	西諸（二期）農業水利事業大河平第1ファームポンド 工事	九州農政局西諸農業水利事業所
大窪第1遺跡	西久保地区河川改修事業	国土交通省九州地方整備局 宮崎河川国道事務所
大年遺跡	県道飯野松山都城線（都城志布志道路）梅北工区道路 整備工事	県土整備部都城土木事務所
中床丸遺跡		
戸崎城跡	国道268号道路拡幅工事	県土整備部小林土木事務所
一本松遺跡	国道269号山之口SASIC道路改良工事	県土整備部都城土木事務所

発掘調査報告書刊行一覧

集	報告書名	副書名	執筆・編集者
1 223	駄小屋遺跡	一般国道218号北方延岡道路建設に伴う埋蔵文化財発掘 調査報告書（10）	野崎 一人
2 234	鍋倉第2遺跡	西諸（二期）農業水利事業大河平第1ファームポンド工事に 伴う文化財発掘調査報告書	山田洋一郎 吉本 正典
3 235	戸崎城跡	国道268号線道路拡幅工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 書	二方 和也

(4) 重要古墳等保護活用推進事業

県内に数多く所在する古墳の現状把握や基礎調査をはじめ重要性のある古墳等の調査・研究を行い、国や県による新たな史跡指定及び指定拡大を目指すなど古墳の保護活用の推進を目的として以下の調査を実施している。

① 古墳の悉皆調査

県指定及び未指定古墳については、総数を県指定古墳 925 基（所在未確認 142 基、指定内容に確認が必要な古墳 40 基を含む）、未指定古墳 100 基以上の総計 1,025 基以上と想定し、これらの現状把握とGPSによる位置情報の蓄積および墳丘規模の計測作業を行っている。本年度は県指定延岡市古墳や県指定北方村古墳など 223 基について実施した。

悉皆調査一覧

市町村名	古墳名	基数	調査担当者
延岡市	県指定延岡市古墳、県指定北方村古墳	19	福田泰典 橋本英俊 沖野 誠
日向市	県指定富高町古墳、県指定鈴鏡塚古墳	3	
都農町	県指定都農町古墳	2	
高鍋町	県指定高鍋町古墳、山王古墳群、牛牧古墳群	44	
新富町	県指定富田村古墳（未指定も含む）、弁指古墳、三納代古墳群	43	
木城町	県指定木城村古墳（未指定も含む）	35	
西都市	県指定三納村古墳、県指定妻町清水・西原古墳、	24	
宮崎市	県指定瓜生野村古墳（未指定も含む）	8	
国富町	県指定本庄町古墳、木脇村古墳、八代村古墳	12	
綾町	県指定綾町古墳	4	
都城市	県指定都城市古墳、県指定高城古墳	23	
串間市	県指定福島町古墳	6	

② 重要古墳の確認調査

県指定古墳の中で、本県及び所在する地域の歴史にとって特に重要と考えられる古墳を選定し、確認調査や地中レーダー探査を実施している。本年度は妻町清水・西原古墳（百塚原古墳群）の確認調査を実施した。

確認調査一覧

	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物	調査期間	調査面積	調査担当者
1	妻町清水・西原古墳 (百塚原古墳群)	西都市 大字三宅	弥生 古墳	消失墳の周溝2基 地下式横穴墓1基	弥生土器 須恵器・土師器	H26. 9. 16 } H26. 11. 14 (実調査日数 30 日)	250 m ²	福田泰典 橋本英俊 沖野 誠

(5) 保存処理

普及資料課では、出土した金属製品や木製品について保存処理を行っている。本年度は、14 遺跡の木器 40 点、鉄器 20 点の処理が完了した。このほか予防保存の観点から特別収蔵庫の清掃を行い、温湿度の環境と虫害防除に一定の効果を上げることができた。

鉄器及び木器保存処理実施の遺跡

遺跡名	主な器種	保存処理
大窪第 1 遺跡、若宮田遺跡、楠ノ木原遺跡 野首第 1 遺跡	鉄鏃、鋌、鉄鏃など	樹脂含浸まで実施
百塚原古墳群	銅製品など	クリーニングまで実施
銀座第 1 遺跡、塚原遺跡、高鍋城三の丸跡	柱材など	樹脂塗布
延岡城内遺跡	漆椀、木簡	糖アルコール法にて処理
井手口遺跡、塚原遺跡、鳥の子遺跡、野首第 1 遺跡、 林遺跡、町屋敷遺跡、柳迫遺跡	木製品（杭）など	糖アルコール法にて処理 (乾燥工程まで)

(6) 収蔵整理

① 収蔵庫（分館）

分館収蔵庫には、登録を完了した遺物や登録作業途中・待機中の遺物を収蔵している。平成 26 年度末における収蔵量はコンテナ 9,007 箱である。

② 収蔵庫（本館）

新収蔵庫には、主に本館で整理作業の終了した遺物や登録待機遺物を収蔵している。平成 26 年度は、コンテナ 80 箱を搬入した。これまでに搬入した分と合わせると、コンテナ 13,910 箱の収蔵量となった。

③ 登録作業

分館において実施している従来の登録法による平成 26 年度の実績は 4 遺跡、コンテナ 143 箱である。累計 208 遺跡、コンテナ 7,055 箱となった。本館における同年度の登録実績は 2 遺跡、コンテナ 11 箱であり、累計 83 遺跡、コンテナ 2,579 箱となった。よって、平成 26 年度の本館と分館を合わせた登録収蔵総累計は、291 遺跡、コンテナ 9,634 箱である。

④ 図書資料

全国から送られてくる発掘調査等の報告書や購入書籍・雑誌類を図書室に集架している。平成 26 年度は 2,217 冊の受け入れがあり、合計収蔵数は 72,527 冊になる。バーコードを利用した図書管理システムを導入しており、パソコンを用いた図書類のデータベース登録を実施している。

2 教育普及活動

本年度は巡回展「みやざき発掘 100 年—いにしへの「道」と交流—」を中心とする事業構成となり、例年とは一部異なる事業展開となった。例年土曜日に 6 回ほど開催している「ここまでわかったひむかの歴史～講演会と遺物公開～」を休止し、巡回展講座「ここまでわかったひむかの歴史」として各巡回展開催地で計 3 回実施した。また、例年 8 月に実施している「遺跡発掘速報会」も本年度は休止した。8 月恒例の夏休み家族講座は例年通り実施した。また、「施設公開」も例年どおり 11 月の埋蔵文化財保護強調週間中に分館で行った。

分館における発掘調査の成果公開は、5 回行っている。なお、平成 26 年度の分館入館者は 5,756 名であった。

(1) 巡回展 『みやざき発掘 100 年—いにしへの「道」と交流—』

「記紀編さん 1,300 年 みやざき発掘 100 年 西都原古墳群発掘 100 年、記念事業として昨年度の特別展に引き続いて県内 3 地域で巡回展を開催した。

- ① 展示会の名称：巡回展『みやざき発掘 100 年—いにしへの「道」と交流—』
- ② 主 催：宮崎県埋蔵文化財センター
- ③ 共 催：延岡市教育委員会、えびの市教育委員会、日南市教育委員会
- ④ 後 援：一般社団法人宮崎県教職員互助会、宮崎考古学会
- ⑤ 会場・会期：
 - (ア) 延岡市内藤記念館 平成 26 年 7 月 5 日(土)～ 8 月 3 日(日)
 - (イ) えびの市歴史民俗資料館 平成 26 年 8 月 12 日(火)～ 9 月 7 日(日)
 - (ウ) 日南市南郷ハートフルセンター 平成 26 年 11 月 11 日(火)～12 月 7 日(日)
- ⑥ 観覧者実績：(ア) 907 名 (イ) 557 名 (ウ) 1,026 名 総数 2,490 名
- ⑦ 関連行事：巡回展講座“ここまでわかったひむかの歴史”
各巡回展会場で以下の関連講座を実施した。



1 平成 26 年 7 月 19 日(土)、於：延岡市内藤記念館	参加者：84 名
① みやざき発掘 100 年を振り返る-発掘調査からみた地域間交流-	講師：長津 宗重
② 駄小屋遺跡の発掘調査でわかった縄文時代の暮らし	講師：野崎 一人
③ 延岡市域の発掘調査	講師：甲斐 康大
2 平成 26 年 8 月 23 日(土)、於：えびの市文化センター	参加者：52 名
① みやざき発掘 100 年を振り返る-発掘調査からみた地域間交流-	講師：長津 宗重
② 霧島山麓の縄文遺跡	講師：泊 俊一郎
③ えびの市出土の鉄製武具(展示解説)	講師：中野 和浩
3 平成 26 年 11 月 22 日(土)、於：南郷ハートフルセンター	参加者：30 名
① みやざき発掘 100 年を振り返る-発掘調査からみた地域間交流-	講師：長津 宗重
② 大窪地区の縄文遺跡	講師：吉本 正典
③ 日南市の文化財	講師：平原 英樹

⑧ 埋文サポーターの導入:

巡回展の開催にあたって、各会場周辺地域を対象に埋文サポーターを募集した。延岡会場2名、えびの会場4名が展示解説を中心に活動した。



延岡会場



えびの会場



日南会場

(2) 埋文センター施設公開

例年、埋蔵文化財センターの事業のPRと埋蔵文化財愛護啓発の目的で「施設公開」を開催している。

本年度は、文化財保護強調週間中の11月2日(日)に分館において終日開催した。

開催日	開催場所	内容	参加者
H26. 11. 2	分館	○各整理作業体験コーナーの他に、発掘疑似体験、石器レプリカ製作体験、遺物と記念撮影、ドングリつぶし体験等	185名



(3) 出前講座

埋蔵文化財センター職員が県内各地域に出向いて、生涯学習団体や小・中学校を対象とした出張講座を実施している。同時に、出前展示やセンター業務紹介も行っている。

回	開催日	学校名・機関名	対象	参加者数	内容
1	H26. 5. 12	宮崎市立広瀬西小学校	6年生	41名	① 埋蔵文化財センターの仕事 ② 学校周辺、佐土原地区の遺跡
2	H26. 6. 3	宮崎市立生目台中学校	1年生	106名	① 埋蔵文化財センターの仕事 ② 学校周辺・宮崎市内の埋蔵文化財
3	H26. 6. 14	宮崎県立高鍋高等学校	1年生	40名	探求科学コース1年生への講義 「考古学とは何か ―高鍋町内の遺跡・遺物で歴史を考える―」
4	H26. 6. 18	高鍋町立高鍋西小学校	6年生	96名	① 埋蔵文化財センターの仕事 ② 高鍋町内の遺跡と埋蔵文化財

回	開催日	学校名・機関名	対象	参加者数	内 容
5	H26. 6. 30	諸塚村立七ツ山小学校	5. 6年生	8名	諸塚村の遺跡と遺物
6	H26. 7. 9	小林市立紙屋中学校	1年生	15名	紙屋地区、野尻町内の遺跡
7	H26. 10. 19	宮崎県立宮崎商業高校	全学年	15名	遺物を知る、拓本実習講座

(4) 出前展示

発掘調査で県内各地から出土した遺物などを各地域で展示し、発掘の成果を公開した。また、合わせて埋蔵文化財センターの業務内容についての紹介を行った。また、本年度も東九州自動車道開通に関するイベントに参加して遺物を展示紹介した。

	開催日	名称	場所	内容	参加者
1	H26. 6. 10 } H26. 6. 22	高速道対策局関連図書館ロビー展	県立図書館	・東九州自動車道建設に伴う発掘調査遺跡他のパネル展	—
2	H26. 9. 19 } H26. 9. 24	県埋蔵文化財センター業務紹介パネル展	イオンモール宮崎	・センターの業務紹介パネル展	—
3	H26. 10. 1 } H26. 10. 13	遺物が語る我がふる里「みやざき発掘100年-いにしへの「道」と交流-」	県武道館	・武道館周辺の遺跡である宮崎学園都市遺跡群関連の遺物を中心に展示	4451名
4	H26. 10. 18 } H26. 10. 19	宮崎県埋蔵文化財センター紹介展	県立宮崎商業高校	・宮崎商業高校の文化祭において、県内の代表的な土器や石器、解説パネル等を展示	102名
5	H26. 10. 28	宮崎教育フェスタ	県武道館	・センターの業務紹介パネル展	700名
6	H27. 2. 14 } H27. 2. 15	みやざき産業まつり	大淀川河川敷	・高速道対策局関連の参加であり、東九州自動車道関連の遺物や解説パネルを展示	—
7	H27. 3. 15	第8回道づくりを考える宮崎中央女性の会総会、研修会	西都原考古博物館	・高速道路建設促進に係る関連資料の展示	200名

(5) 遺跡発掘速報会

平成26年度は、巡回展開催のため開催中止とした。

(6) 発掘体験

平成26年度は、開催なし。

(7) 現地説明会

発掘調査中の現場を県民に見学していただく遺跡現地説明会である。

	事業名	開催地	期日	参加者	事業内容
1	鍋倉第2遺跡発掘調査現地説明会	えびの市	H26. 10. 26	25名	大河平第1ファームポンド建設事業

(8) 発掘調査成果報告会

	事業名	開催地	期日	参加者	事業内容
1	百塚原古墳群確認調査成果報告会	西都市百塚原	H26. 11. 1	13名	百塚原古墳群確認調査

(9) 見学・研修等で訪れた団体および職場体験の受け入れ

番号	内容	場所	団体名	期日	人数
1	展示見学	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立瓜生野小学校3,4年生	H26. 5. 2	73名
2	展示見学	埋蔵文化財センター分館	川南町立通山小学校5年生	H26. 5. 15	36名
3	展示見学	埋蔵文化財センター分館	三股町立三股西小学校4年生	H26. 5. 16	119名
4	展示見学	埋蔵文化財センター分館	延岡市立緑ヶ丘小学校5年生	H26. 5. 16	47名
5	展示見学	埋蔵文化財センター分館	都城市立菓子野小学校5年生	H26. 5. 16	21名
6	展示見学	埋蔵文化財センター分館	小林市立東方小学校3,4年生	H26. 5. 22	42名
7	展示見学	埋蔵文化財センター分館	新富町立上新田小学校5年生	H26. 5. 29	25名
8	拓本体験・見学	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立広瀬西小学校1年生レクリエーション	H26. 7. 12	102名
9	展示見学	埋蔵文化財センター分館	県総合博物館博物館実習生	H26. 7. 25	10名
10	展示見学	埋蔵文化財センター分館	東郷町公民館土曜子ども講座	H26. 8. 16	21名
11	展示見学	埋蔵文化財センター分館	東北芸術工科大学	H26. 9. 26	5名
12	展示見学	埋蔵文化財センター分館	県教育研修センター研修生	H26. 10. 9	24名
13	展示見学	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立富吉小学校4年生	H26. 10. 17	48名
14	展示見学	埋蔵文化財センター分館	三股町立勝岡小学校3年生	H26. 10. 24	44名
15	展示見学	埋蔵文化財センター分館	小林市立野尻小学校6年生	H26. 10. 31	35名
16	展示見学	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立清武小学校3年生	H26. 10. 31	115名
17	展示見学	埋蔵文化財センター分館	小林市立細田小学校5,6年生	H26. 10. 31	17名
18	展示見学	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立宮崎西小学校3年生	H26. 10. 31	53名
19	展示見学	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立小松台小学校3年生	H26. 11. 7	99名
20	展示見学	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立大淀小学校3年生	H26. 11. 7	204名

番号	内容	場所	団体名	期日	人数
2 1	展示見学	埋蔵文化財センター分館	宮崎市立江平小学校 6 年生	H26. 11. 14	136 名
2 2	展示見学	埋蔵文化財センター分館	明治大学博物館友の会	H26. 12. 5	24 名
2 3	展示見学	埋蔵文化財センター分館	鹿児島県立曾於高等学校	H26. 12. 11	18 名
2 4	展示見学	埋蔵文化財センター分館	宮崎大学博物館学課程学生	H26. 12. 14	40 名
2 5	展示見学	埋蔵文化財センター分館	国富町婦人会	H27. 2. 4	25 名
2 6	展示見学	埋蔵文化財センター分館	ちどり保育園	H27. 2. 5	50 名
2 7	展示見学	埋蔵文化財センター分館	佐賀県神崎郷土史研究会	H27. 2. 25	15 名
2 8	県立・公立小中学校初 任者研修	埋蔵文化財センター本館	県教育研修センター 県立学校・公立小中学校教諭	H26. 7. 31	10 名
2 9	教職経験 10 年経過研 修	中床丸遺跡(都城市)	県教育研修センター 県立学校・公立小中学校教諭	H26. 11. 14	18 名
3 0	職場体験学習	埋蔵文化財センター本館	宮崎市立佐土原中学校 2 年生	H26. 6. 25 ～ H25. 6. 27	2 名
3 1	職場体験学習	埋蔵文化財センター本館	宮崎市立広瀬中学校 2 年生	H26. 11. 5 ～ H26. 11. 7	2 名
3 2	職場体験学習	埋蔵文化財センター本館	宮崎市立久峰中学校 2 年生	H26. 11. 26 ～ H26. 11. 28	2 名

(10) 資料等の提供

埋蔵文化財センターでは、一般や公共機関、研究機関、研究者の利用希望に応じて、可能な限り資料を提供している。資料提供には資料調査等に係る館内利用（資料の閲覧・実測等）や館外貸出及び掲載許可申請があり、平成 26 年度は館内利用 17 件、館外貸出 8 件、掲載許可 7 件であった。

館内利用

	遺跡名・利用資料名	利用目的	利用日
1	前ノ田村上第 1 ・木戸平第 2 ・向原中尾第 2 ・赤坂・日向国分寺・木脇・塚原 C 地区・寺崎遺跡〔土器・石器・瓦・ベンガラ〕	資料調査	H26. 6. 18～19
2	野首第 2 遺跡〔石器〕	資料調査	H26. 6. 26
3	木脇遺跡、下屋敷遺跡、北牛牧第 5 遺跡、春日地区第 2 遺跡、音明寺第 2 遺跡（2 次）〔旧石器〕	資料調査	H26. 7. 6
4	西畦原第 2 遺跡 D 地区・下那珂遺跡〔土器胎土〕	資料調査	H26. 7. 15
5	山田遺跡、東畦原第 1 遺跡、阿蘇原上遺跡〔旧石器〕	資料調査	H26. 9. 26

	遺跡名・利用資料名	利用目的	利用日
6	布平遺跡〔石器〕	資料調査	H26. 9. 29～30
7	持田中尾遺跡〔石器〕	資料調査	H26. 10. 1～2
8	枝遺跡、上三輪小切畑第1遺跡、広原第1遺跡、木戸平第2遺跡、赤石遺跡、野門遺跡〔石器・玉類〕	資料調査	H26. 10. 22～28
9	平畑遺跡〔石器〕、虎崩・榎木田遺跡〔石器〕	資料調査	H26. 11. 10～13
10	神殿遺跡〔土器〕	資料調査	H26. 11. 22
11	生駒遺跡、赤石遺跡〔土器〕	資料調査	H27. 1. 25
12	西下本庄遺跡、右葛ヶ迫遺跡、倉岡第2遺跡、上ノ原遺跡〔土器〕	資料調査	H27. 2. 1
13	余り田遺跡、西下本庄遺跡、筆無遺跡、塩見城跡〔陶磁器〕	資料調査	H27. 2. 9
14	老瀬坂上第3遺跡、下耳切第3遺跡、祇園原地区遺跡、春日地区遺跡、宮ノ東遺跡、学頭遺跡、右葛ヶ迫遺跡、平畑遺跡、上の原第2遺跡、天神河内第1遺跡、竹ノ内遺跡、下星野遺跡、上牧第2遺跡、虎崩・榎木田遺跡、赤石遺跡、野首第2遺跡〔土器片錘〕	資料調査	H27. 2. 11
15	尾花A遺跡、分蔵遺跡、岡（6・7次）〔石器〕	資料調査	H27. 2. 13
16	上の原第3遺跡、右葛ヶ迫遺跡、上の原第2遺跡、木脇遺跡、高岡麓遺跡、上別府遺跡〔土器〕	資料調査	H27. 3. 2～3
17	長野遺跡、舟川第2遺跡、俵石第1遺跡、俵石第2遺跡、木戸平第2遺跡、向原中尾第1・2遺跡、向原中尾第4遺跡〔旧石器〕	資料調査	H27. 3. 29～30

館外貸出

	貸出資料名	数量	目的	期間	貸出機関名
1	学習キット〔縄文・弥生時代〕	一式	6年生の社会科授業で使用	H26. 4. 13 } H26. 4. 21	日南市立大窪小学校
2	上の原第1遺跡、曾井第2遺跡、上の原第3遺跡〔土師器・陶磁器〕	37点	遊古館展示会「大淀中学校区の遺跡たち」で使用	H26. 4. 18 } H26. 10. 8	宮崎市教育委員会
3	学習キット〔縄文・弥生・古墳時代〕	一式	6年生の社会科授業で使用	H26. 4. 26 } H26. 5. 3	都城市立東小学校

	貸出資料名	数量	目的	期間	貸出機関名
4	学習キット[縄文・弥生]	一式	6年生の社会科授業で使用	H26.5.11 } H26.5.18	延岡市立東小学校
5	浦田遺跡・山ノ田第1遺跡・塚原遺跡・王子原遺跡・古城遺跡・下那珂遺跡・下大五郎遺跡・向原第1遺跡・赤坂遺跡・平田遺跡・尾花A遺跡・俵石第2遺跡〔玉類・鉄器〕	43点	開館10周年記念特別展「日向の神々と出雲の神々」に使用	H26.8.18 } H26.12.19	西都原考古博物館
6	日守・仮屋尾地下式横穴墓〔土器〕	2点	高原町内出土遺物展示のため	H26.9.9 } H27.8.31	高原町教育委員会
7	上牧第2遺跡・町屋敷遺跡・枯木ヶ迫遺跡・下耳切第3遺跡・高鍋城三の丸〔木製品・石器〕	6点	特別展「どんぐりとまつぼっくり」展に使用	26.10.6 } H26.12.12	宮崎県総合博物館
8	学習キット[旧石器・縄文時代]	一式	研修会に使用	26.12.19 } H26.12.25	宮崎市立西池小学校

刊行物等掲載（写真等資料提供）

資料名	掲載刊行物等	依頼者	申請日
[写真]塚原遺跡・木脇遺跡(草創期土器)、西畦原第2遺跡D地区(弥生土器)、寺崎遺跡(瓦、土師器)、国分寺跡(瓦)	日本文化財科学会第31回大会 研究発表ポスター掲示に使用	宮崎市教育委員会 竹井真知子氏	H26.6.30
[写真]広原第2遺跡(SC2断面) [図面]広原第2遺跡(SC2断面図)	「どんぐりとまつぼっくり」 展 パネルに使用	県総合博物館	H26.8.21
[写真]地藏ヶ森遺跡(調査区遠景、発掘調査の様子、縄文早期面の状況、集石遺構、竪穴住居、竪穴住居出土の土師器、縄文早期の土器、縄文早期の石器)	延岡市小峰町の歴史を記録保存するため活用	甲斐武豊氏	H26.11.28
[写真]町屋敷遺跡(土層断面)	県総合博物館歴史講座のパワーポイント資料に使用	西都原考古博物館 藤木 聡氏	H26.12.13
[図面]西ノ別符遺跡(重圏文鏡実測図)	研究ノート「弥生時代終末期の銅鐸破片の意義について」 『徳島大学埋蔵文化財調査室紀要』1に掲載	徳島大学埋蔵文化財調査室 脇山佳奈氏	H27.1.8

資料名	掲載刊行物等	依頼者	申請日
〔写真〕右葛ヶ迫遺跡（出土土器より検出したアワ圧痕レプリカ） 〔図面〕右葛ヶ迫遺跡（土器実測図）	第25階九州縄文研究会発表要旨集に掲載	熊本大学 小畑弘己氏	H27. 1. 28
〔写真〕宝財原遺跡（A区1号集石、I A区西半と3号集石、調査区、遺跡全景）	「西都市史」資料編	西都市教育委員会	H27. 3. 20

(11) 職員派遣

市町村の教育委員会に埋蔵文化財の専門的・技術的な指導を行い、諸機関・団体主催講演会等の普及啓発行事にも職員を派遣している。

内容	派遣期日	依頼者	派遣職員
持田古墳48号墳周辺出土鉄器取上指導	H26. 4. 3	高鍋町教育委員会	柳田 晴子
城谷遺跡（梶山城跡）縄張り調査	H26. 10. 23	都城市教育委員会	福田 泰典
シンポジウム「世界文化遺産としての古墳を考える Part II ～東アジアの中の古墳文化」パネリスト	H26. 10. 25	西都原古墳群世界文化遺産登録推進シンポジウム実行委員会	甲斐 貴充
都於郡城跡出土遺物に関する調査指導	H26. 11. 18	西都市教育委員会	福田 泰典
日向市東郷町内の城郭遺構に関する調査指導	H26. 12. 5	日向市教育委員会	福田 泰典
島内地下式横穴墓139号遺物取上指導	H26. 11. 21, 25, 28 H26. 12. 4 H27. 1. 8, 9	えびの市教育委員会	柳田 晴子
延岡城跡石垣の石材調査指導	H27. 3. 5	延岡市教育委員会	赤崎 広志

(12) 埋蔵文化財担当専門職員研修会

埋蔵文化財センターでは、発掘調査技術等の向上をめざし、県及び市町村埋蔵文化財担当専門職員を対象とした研修を実施している。

内容	場所	期日	参加者数
「西南戦争関連遺構の調査について」 講師 高橋信武（大分県教育庁埋蔵文化財センター） 堀田孝博（西都原考古博物館）	延岡市 内藤記念館 延岡市稲葉崎町、北川町	H27. 2. 5 ～2. 6	28名

(13) 広報出版物

埋蔵文化財センターの「年間行事案内」及び「埋文通信」の発行を行うとともに巡回展、施設公開等についてもポスターやチラシ、資料等の作成を行った。

	広報出版物	発行年月
1	巡回展『みやざき発掘100年ーいにしへの「道」と交流ー』関係 地域歴史ブック	H27. 3
2	平成27年度宮崎県埋蔵文化財センター 年間行事案内「EVENT CALENDAR」	H27. 3
3	宮崎県埋蔵文化財センター通信 「ひむか」17号	H27. 3

(14) ホームページ

本年度も延岡、えびの、日南における巡回展や分館での施設公開、発掘調査成果展など各種の広報にホームページを活用した。これらは、イベント情報ページと新着情報において告知とチラシのPDFダウンロードができるようにして広報効果の向上に努めた。刊行物ページのセンター刊行報告書の抄録、本文のPDF検索を一覧表で行えるように改修し、利用者の利便性を高めた。

3 会議・職員研修

(1) 各種会議等への参加

独立行政法人奈良文化財研究所で実施している発掘技術者研修や全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会主催の各種会議等に職員を派遣し、職員の資質向上と業務の円滑な推進を図っている。

内容	日程	開催地	出席者
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会総会	H26. 5. 29～ 5. 30	山梨県甲府市	岩切 隆志
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議	H26. 10. 9～10. 10	広島県福山市	菅付 和樹
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会研修会	H26. 10. 23～10. 24	奈良県奈良市	長津 宗重
文化財担当者研修「報告書作成Ⅱ（応用制作）課程」	H26. 7. 14～7. 18	奈良県奈良市	甲斐 貴充
文化財担当者研修「遺跡情報記録調査課程」	H26. 12. 16～12. 19	奈良県奈良市	橋本 英俊
古代官衙・集落研究集会	H26. 12. 12～12. 13	奈良県奈良市	福田 泰典
文化庁平成26年度 第2回埋蔵文化財担当者等講習会	H27. 2. 4～2. 6	岡山県岡山市	甲斐 貴充
鹿児島県立埋蔵文化財センター及び（公財）埋蔵文化財調査センター業務報告会	H27. 2. 26	鹿児島県鹿児島市	長津 宗重 山田 洋一郎 永野 一美 徳田 尚文 沖野 誠

(2) 共同研究への参加

他研究者機関等が主催する共同研究へ職員が参加するものである。

内 容	日 程	参加者
九州国立博物館 X線CTスキャナ等を用いた出土遺物の分析に関する研究	H26. 8. 21～ 8. 22	甲斐 貴充

(3) 労働安全衛生関係の講習会等への参加

発掘調査現場及びセンター内での安全衛生の増進を図るため、以下の各講習会へ参加している。

内 容	日 程	参加者
安全衛生推進者養成講習	H26. 4. 15～ 4. 16	山本 清春 永野 一美
地山の掘削及び土止め支保工作業主任者技能講習	—	—
救急救命講座（心肺蘇生法・AED操作法・応急手当）	H26. 7. 2/7. 7	総務課・調査課・普及資料課 各職員
第二種衛生管理者受験準備講習	H25. 6. 24～ 6. 26	甲斐 貴充
第二種衛生管理者免許試験	H25. 8. 10	甲斐 貴充

IV 宮崎県埋蔵文化財センター管理規則

平成 8 年 3 月 29 日
教育委員会規則第 5 号

改正

平成 12 年 1 月 20 日教育委員会規則第 1 号
平成 12 年 3 月 31 日教育委員会規則第 8 号
平成 12 年 12 月 18 日教育委員会規則第 21 号
平成 18 年 3 月 30 日教育委員会規則第 9 号
平成 19 年 3 月 30 日教育委員会規則第 3 号
平成 20 年 3 月 31 日教育委員会規則第 6 号
平成 26 年 3 月 27 日教育委員会規則第 2 号
宮崎県埋蔵文化財センター管理規則をここに公布する。
宮崎県埋蔵文化財センター管理規則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、別に定めるもののほか、宮崎県埋蔵文化財センター及び宮崎県埋蔵文化財センター分館（以下「埋蔵文化財センター」という。）の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(事業)

第 2 条 埋蔵文化財センターは、次に掲げる事業を行う。

- (1) 埋蔵文化財の調査研究に関すること。
- (2) 出土品その他の資料の保存及び活用に関すること。
- (3) 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備に関すること。
- (4) 埋蔵文化財関係者の専門的、技術的な研修及び指導に関すること。
- (5) 埋蔵文化財保護思想の普及及び啓発に関すること。
- (6) その他埋蔵文化財保護に必要な事業に関すること。

(組織)

第 3 条 埋蔵文化財センターに、次の課を置く。

総務課
調査課
普及資料課

(分掌事務)

第 4 条 前条に規定する各課の分掌事務は、次のとおりとする。

総務課

- (1) 職員の人事、給与及び服務に関すること。
- (2) 予算の執行及び決算に関すること。
- (3) 文書の收受、発送及び保存に関すること。
- (4) 公印の管守に関すること。
- (5) 施設及び設備の管理に関すること。
- (6) その他他の課の所管に属さない事項に関すること。

調査課

- (1) 国、県関係事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
- (2) 東九州自動車道建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
- (3) 重要遺跡の発掘調査及び保護に関すること。
- (4) 前 3 号の発掘調査に係る出土品その他の資料の整理に関すること。
- (5) 第 1 号から第 3 号までの発掘調査に係る発掘調査報告書の作成等に関すること。

普及資料課

- (1) 出土品の保存処理、修復、保存管理及び活用に関すること。
- (2) 埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備に関すること。
- (3) 出土品その他の資料及び埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料（以下「資料等」という。）の貸出しに関すること。
- (4) 埋蔵文化財関係者に対する専門的、技術的な研修及び指導に関すること。

(職及び職務)

第5条 埋蔵文化財センターに、次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は、それぞれ同表の右欄に掲げるとおりとする。

職	職務
所 長	所務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
副 所 長 (2人)	所長を補佐し、所長に事故があるとき、又は所長が欠けたときは、その職務を代行する。
課 長	上司の命を受けて、課に属する事務を処理する。
専門主事	上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とする事務に従事する。
主任主事	上司の命を受けて、複雑な事務に従事する。
主 事	上司の命を受けて、事務に従事する。

2 前項に規定する副所長の職務の担当区分は、1人を統括とし、他を業務担当とする。

3 第1項の規定により副所長が所長の職務を代行する順序は、次のとおりとする。

第1順位 統括の副所長

第2順位 業務担当の副所長

4 第1項に規定する職のほか、埋蔵文化財センターに、必要に応じ、次の表の左欄に掲げる職を置き、その職務は、それぞれ同表の右欄に掲げるとおりとする。

職	職務
副 参 事	上司の命を受けて、埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
主 幹	上司の命を受けて、埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
専門主幹	上司の命を受けて、専門的知識及び経験を必要とする埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
副 主 幹	上司の命を受けて、その相当高度の専門的業務に従事し、又は埋蔵文化財センターの特定の事務を掌理する。
主 査	上司の命を受けて、専門的業務に従事する。

(その他の職)

第6条 前条に規定する職のほか、埋蔵文化財センターに必要に応じ、技術員を置く。

2 技術員は、上司の命を受けて、技能又は労務に従事する。

(開館時間等)

第7条 埋蔵文化財センターの開館時間は、午前9時から午後5時までとする。

2 埋蔵文化財センターの入館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

(休館日)

第8条 埋蔵文化財センターの休館日は、次のとおりとする。

区 分	休 館 日
宮崎県埋蔵文化財センター	1 土曜日及び日曜日 2 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。) 3 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで(休日を除く。) 4 特別整理期間(あらかじめ所長が定めて公示する期間をいう。以下同じ。)
宮崎県埋蔵文化財センター 分館	1 月曜日(休日に当たるときを除く。) 2 休日の翌日(土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。) 3 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで 4 特別整理期間

2 所長は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、臨時に同項に定める休館日に開館し、又は同項に定める休館日以外の日に休館することができる。

(入館の制限等)

第9条 所長は、埋蔵文化財センターを利用しようとする者が次の各号のいずれかに該当するときは、その入館を制限し、若しくは退館を命じ、又はその利用を中止させることができる。

(1) 公の秩序又は善良の風俗を乱すおそれがあると認められるとき。

(2) 施設、設備、備品等を損傷し、又は滅失するおそれがあると認められるとき。

(3) 所長が指定する場所以外において喫煙又は飲食をしたとき。

(4) 条例若しくは規則又は所長の指示に従わないとき。

(5) 前各号に掲げる場合のほか、埋蔵文化財センターの管理運営上支障があると認められるとき。

(資料等の館内利用)

第10条 館内において資料等を利用しようとする者は、資料等館内利用承認申請書(別記様式第1号)を所長に提出して、所長の承認を受けなければならない。

(資料等の館外貸出し)

第 11 条 次に掲げるものは、資料等の館外貸出しを受けることができる。

- (1) 国立の博物館、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 2 条第 1 項に規定する博物館及び同法第 29 条の規定により文部科学大臣又は宮崎県教育委員会が博物館に相当する施設として指定したもの
 - (2) 社会教育法（昭和 24 年法律第 207 号）第 21 条に規定する公民館
 - (3) 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 1 条に規定する学校
 - (4) 国又は地方公共団体の設置する教育又は文化に関する調査研究機関
 - (5) 市町村立の歴史民俗資料館等で宮崎県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が定めるもの
 - (6) その他教育長が適当と認めるもの
- 2 資料等の館外貸出しの期間は、30 日以内とする。ただし、所長が特に必要があると認めるときは、これを延長し、又は貸出しの期間中であっても、当該資料等の返還を求めることができる。
- 3 資料等の館外貸出しを受けようとする者は、資料等館外貸出承認申請書（別記様式第 2 号）を所長に提出し、所長の承認を受けなければならない。
- 4 所長は、出土品その他の資料について前項の承認をしようとするときは、次の事項を確認しなければならない。
- (1) 貸出しを受ける目的が当該出土品その他の資料の保存及び活用にとって適切であること。
 - (2) 当該出土品その他の資料の保管、展示等を適切に行うための施設及び設備が整備されていること。
 - (3) 貸出しの期間中当該出土品その他の資料が適切な知識、技能を持つ者に取り扱われること。

(弁償)

第 12 条 入館者、館内利用者又は資料等の館外貸出しを受けた者は、資料等、設備又は備品を亡失し、破損し、又は汚損したときは、所長の指示に従い、その修理又は損害の賠償をしなければならない。

(委任)

第 13 条 この規則に定めるもののほか、埋蔵文化財センターの管理運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、平成 8 年 4 月 1 日から施行する。
(宮崎県総合博物館管理運営規則の一部改正)
 - 2 宮崎県総合博物館管理運営規則（昭和 46 年宮崎県教育委員会規則第 4 号）の一部を次のように改正する。
(次のよう略)
- 附 則（平成 12 年 1 月 20 日教育委員会規則第 1 号）
この規則は、平成 12 年 1 月 20 日から施行する。
- 附 則（平成 12 年 3 月 31 日教育委員会規則第 8 号）
この規則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。
- 附 則（平成 12 年 12 月 18 日教育委員会規則第 21 号抄）
(施行期日)
- 1 この規則は、平成 13 年 1 月 6 日から施行する。
- 附 則（平成 18 年 3 月 30 日教育委員会規則第 9 号）
この規則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。
- 附 則（平成 19 年 3 月 30 日教育委員会規則第 3 号）
この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。
- 附 則（平成 20 年 3 月 31 日教育委員会規則第 6 号）
この規則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。
- 附 則（平成 26 年 3 月 27 日教育委員会規則第 2 号）
この規則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

別記

様式第 1 号

(第 10 条関係)

様式第 2 号

(第 11 条関係)

資料等館内利用承認申請書

年 月 日

宮崎県埋蔵文化財センター所長 殿

住 所
申請者 氏 名
電話番号

〔法人にあつては主たる事務所の所在地、
名称及び電話番号並びに代表者の氏名〕

資料等の館内利用をしたいので、宮崎県埋蔵文化財センター管理規則第10条の規定により、次のとおり申請します。

館内利用の目的			
資料等の名称	形 状	数 量	備 考

資料等館外貸出承認申請書

年 月 日

宮崎県埋蔵文化財センター所長 殿

住 所
申請者 氏 名
電話番号

〔法人にあつては主たる事務所の所在地、
名称及び電話番号並びに代表者の氏名〕

資料等の館外貸出を受けたいので、宮崎県埋蔵文化財センター管理規則第11条第3項の規定により、次のとおり申請します。

館外貸出の目的			
資料等の名称	形 状	数 量	備 考
館外貸出期間	年 月 日から 年 月 日まで		

案内図

宮崎県埋蔵文化財センター

所在地 〒880-0212

宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 4019

TEL 0985-36-1171 (代表・総務課)

0985-36-1172 (調査課)

FAX 0985-72-0660

ホームページ <http://www.miyazaki-archive.jp/maibun/>

E-mail maizobunkazai-c@pref.miyazaki.lg.jp

アクセス

公共機関：JR 佐土原駅から車で 10 分

宮崎市街地から高鍋町方面宮崎交通バス

御殿下バス停 から徒歩で 8 分



宮崎県埋蔵文化財センター分館

所在地 〒880-0053

宮崎県宮崎市神宮 2 丁目 4-4

TEL 0985-21-1600 (普及資料課)

FAX 0985-26-2634

観覧時間 午前 9 時～午後 5 時

(入館は午後 4 時 30 分まで)

休館日 年末年始 (12 月 28 日～1 月 4 日)

入館料 無料

E-mail maibun-fukyu@pref.miyazaki.lg.jp

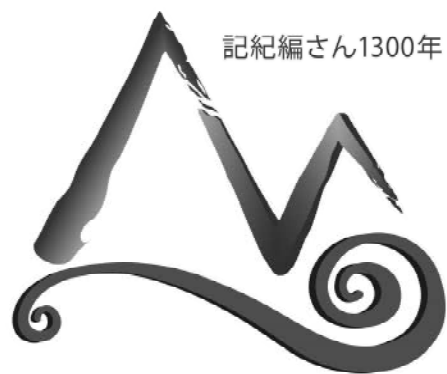
アクセス

公共機関：JR 宮崎神宮駅から徒歩で 10 分

綾・国富・平和が丘行き宮崎交通バス

博物館前バス停から徒歩で 2 分





交差する歴史と神話
みやざき発掘100年

宮崎県埋蔵文化財センター

〒880-0212 宮崎市佐土原町下那珂 4019 番地
TEL 0985-36-1171・1172 FAX 0985-72-0660
E-mail maizobunkazai-c@pref.miyazaki.lg.jp